

# 検討を進めるための参考資料（追加）及び 少子化が加速する地域における高等学校教育の 在り方に関する論点について

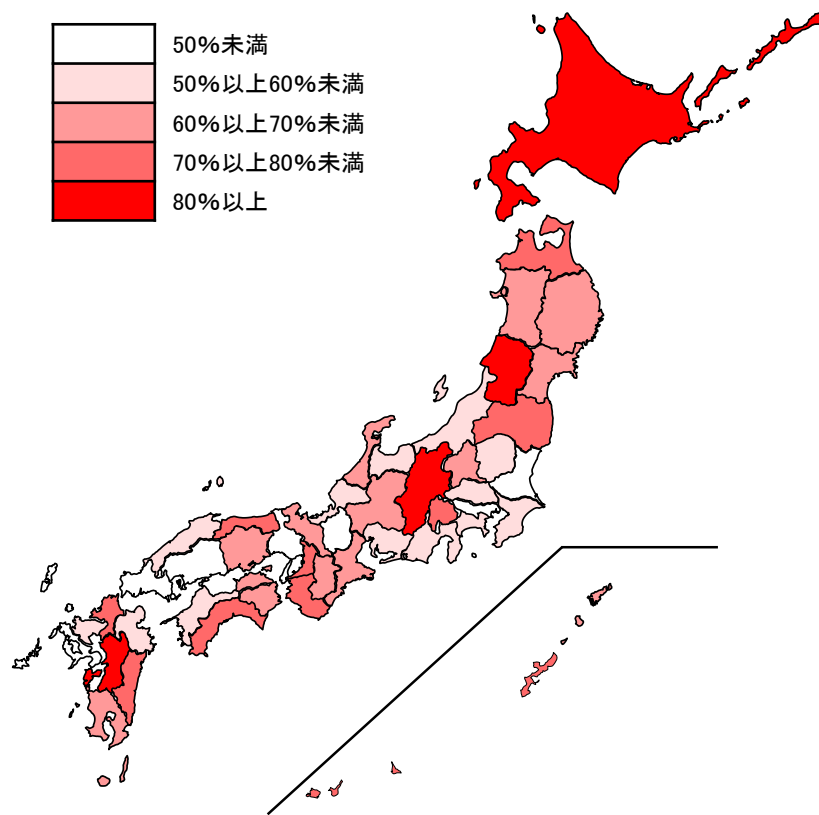
# 公立高等学校の配置（公立高等学校の立地が0ないし1である市区町村）

○令和3年5月1日時点で、全国の市区町村（1,741）のうち、公立高等学校の立地が0ないし1であるものは1,129（64.8%）。  
内訳は0が489（28.1%）、1が640（36.8%）。

○公立高等学校の立地が0ないし1である市区町村の数は、令和元年度の1,088（62.5%）より増加。

○各都道府県における公立高等学校の立地が0ないし1の市区町村の割合が最も高いのは熊本県の84.4%、最も低いのは東京都の33.9%。

	割合	内訳（立地）			割合	内訳（立地）	
		0校	1校			0校	1校
北海道	83.2% ( 149 / 179 )	54	95	京都府	61.5% ( 16 / 26 )	8	8
青森県	77.5% ( 31 / 40 )	14	17	大阪府	79.1% ( 34 / 43 )	10	24
岩手県	60.6% ( 20 / 33 )	3	17	兵庫県	34.1% ( 14 / 41 )	1	13
宮城県	65.7% ( 23 / 35 )	5	18	奈良県	69.2% ( 27 / 39 )	18	9
秋田県	64.0% ( 16 / 25 )	8	8	和歌山県	70.0% ( 21 / 30 )	13	8
山形県	80.0% ( 28 / 35 )	10	18	鳥取県	78.9% ( 15 / 19 )	10	5
福島県	76.3% ( 45 / 59 )	23	22	島根県	52.6% ( 10 / 19 )	3	7
茨城県	43.2% ( 19 / 44 )	6	13	岡山県	63.0% ( 17 / 27 )	10	7
栃木県	56.0% ( 14 / 25 )	4	10	広島県	43.5% ( 10 / 23 )	1	9
群馬県	65.7% ( 23 / 35 )	13	10	山口県	42.1% ( 8 / 19 )	2	6
埼玉県	58.7% ( 37 / 63 )	12	25	徳島県	66.7% ( 16 / 24 )	9	7
千葉県	53.7% ( 29 / 54 )	14	15	香川県	64.7% ( 11 / 17 )	4	7
東京都	33.9% ( 21 / 62 )	8	13	愛媛県	50.0% ( 10 / 20 )	1	9
神奈川県	57.6% ( 19 / 33 )	7	12	高知県	76.5% ( 26 / 34 )	16	10
新潟県	56.7% ( 17 / 30 )	8	9	福岡県	73.3% ( 44 / 60 )	21	23
富山県	53.3% ( 8 / 15 )	1	7	佐賀県	55.0% ( 11 / 20 )	4	7
石川県	63.2% ( 12 / 19 )	2	10	長崎県	38.1% ( 8 / 21 )	2	6
福井県	58.8% ( 10 / 17 )	6	4	熊本県	84.4% ( 38 / 45 )	22	16
山梨県	74.1% ( 20 / 27 )	11	9	大分県	50.0% ( 9 / 18 )	2	7
長野県	80.5% ( 62 / 77 )	40	22	宮崎県	73.1% ( 19 / 26 )	13	6
岐阜県	66.7% ( 28 / 42 )	14	14	鹿児島県	67.4% ( 29 / 43 )	14	15
静岡県	54.3% ( 19 / 35 )	4	15	沖縄県	70.7% ( 29 / 41 )	18	11
愛知県	55.6% ( 30 / 54 )	8	22				
三重県	69.0% ( 20 / 29 )	8	12				
滋賀県	36.8% ( 7 / 19 )	4	3				
				全国	64.8% ( 1129 / 1741 )	489	640

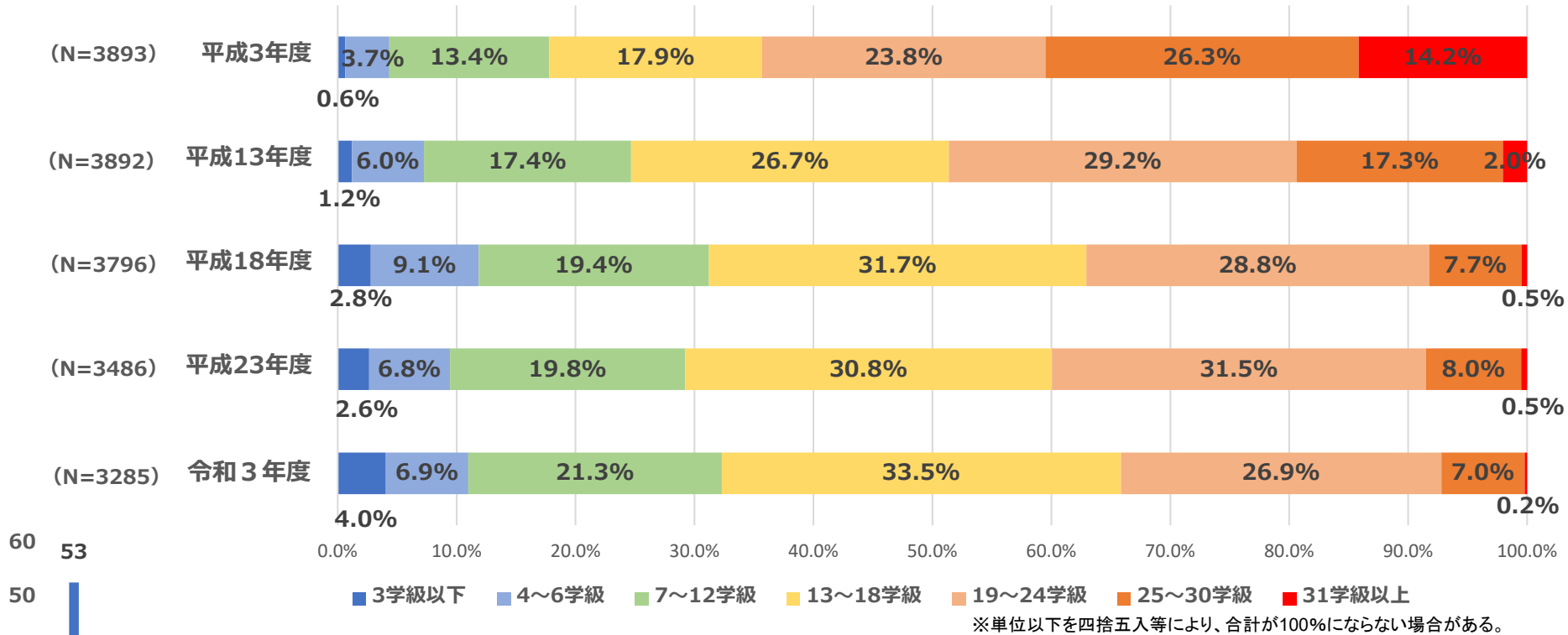


# 高等学校の学級規模（全日制、公立、本校のみ）

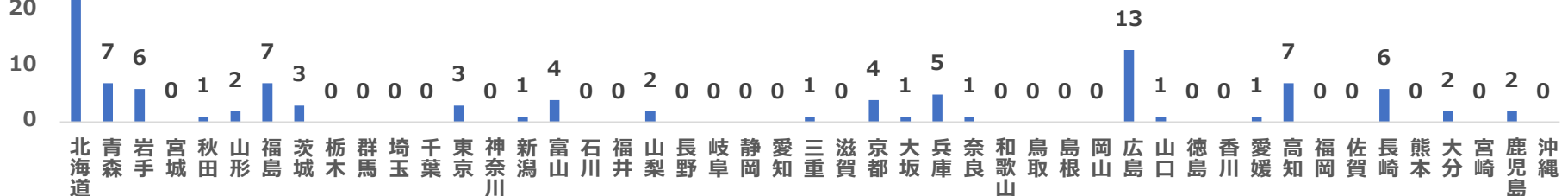
（出典）文部科学省「学校基本調査」

○公立高等学校の学級規模は、徐々に縮小傾向。平成23年から令和3年度にかけては、学校数が約200減少している一方で、小規模校の割合は増加。

## 学校規模の変遷（全日制、本校のみ）



## 令和3年度において3学級以下の学校の数（都道府県別、全日制、本校のみ）



# 各都道府県における将来的な学級規模の推移の分析例①

## 岡山県における、各学区の1学年あたり学級数別学校数の予測

※学校数を維持しながら、均等に学級減を進めた場合の見込み（公立全日制（中等教育学校を含む））を岡山県教育委員会において推計したものの。

### 西備学区

学級数	H29	H40	H43
9学級			
8学級			
7学級			
6学級			
5学級	2 <sub>*3</sub>		
4学級	3	1	
3学級	1	4	3
2学級		1	3
1学級			

\*3 井原高校（北校地3・南校地2）を含む

### 倉敷学区

学級数	H29	H40	H43
9学級			
8学級	7	1	
7学級	3	6	7
6学級	2	4	4
5学級	1	1	1
4学級		1	1
3学級			
2学級			
1学級			

### 岡山学区

学級数	H29	H40	H43
9学級	4		
8学級	4	5	4
7学級	3	4	4
6学級		2	3
5学級	2	1	1
4学級	5	4	3
3学級		2	3
2学級			
1学級			

### 備北学区

学級数	H29	H40	H43
9学級			
8学級			
7学級			
6学級	1 <sub>*1</sub>		
5学級			
4学級	2	1	1
3学級		1	1
2学級		1	1
1学級			

\*1 新見高校（北校地3・南校地3）を含む

### 美作学区

学級数	H29	H40	H43
9学級			
8学級			
7学級	1		
6学級	1	1	
5学級	3 <sub>*2</sub>	1	2
4学級	3	3	2
3学級		3	4
2学級			
1学級			

\*2 勝山高校（勝山校地4・藤山校地1）  
真庭高校（落合校地3・久世校地2）を含む

### 東備学区

学級数	H29	H40	H43
9学級			
8学級			
7学級			
6学級			
5学級			
4学級	4		
3学級	1	4	3
2学級		1	2
1学級			

（出典）  
岡山県高等学校教育研究協議会  
「平成40（2028）年度を目途とする  
県立高等学校教育体制の整備  
について」（提言）（平成29年  
11月）

## 各都道府県における将来的な学級規模の推移の分析例②

### 長崎県における、学校規模別の現状と将来予測（県内公立全日制高等学校）

※令和12年度予測は、中学校卒業生数の減少に対し、現状の学校数を維持したまま、単純に学級減を行った場合のシミュレーション。

1学年の学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級
平成31年度	6校	9校	9校	9校	4校	10校	5校	3校



1学年の学級数	1学級	2学級	3学級	4学級	5学級	6学級	7学級	8学級
令和12年度(予測)	9校	10校	11校	5校	6校	11校	2校	1校

(出典) 第三期長崎県立高等学校改革基本方針（令和2年3月）

# 小規模校のメリット・課題 (「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」より)

- 小規模校に関する一般的なメリットと課題について、「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き」の中では以下のように記載している。高等学校の小規模校についてはこうした点のほか、配置できる教員の数が限られるため、生徒が履修できる科目が限られるという課題も挙げられる。

## 【一般に小規模校に存在するとされるメリット】

- ① 一人一人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい
- ② 意見や感想を発表できる機会が多くなる
- ③ 様々な活動において、一人一人がリーダーを務める機会が多くなる
- ④ 複式学級においては、教師が複数の学年間を行き来する間、児童生徒が相互に学び合う活動を充実させることができる
- ⑤ 運動場や体育館、特別教室などが余裕をもって使える
- ⑥ 教材・教具などを一人一人に行き渡らせやすい。例えば、ICT機器や高価な機材でも比較的少ない支出で全員分の整備が可能である
- ⑦ 異年齢の学習活動を組みやすい、体験的な学習や校外学習を機動的に行うことができる
- ⑧ 地域の協力が得られやすいため、郷土の教育資源を最大限に生かした教育活動が展開しやすい
- ⑨ 児童生徒の家庭の状況、地域の教育環境などが把握しやすいため、保護者や地域と連携した効果的な生徒指導ができる

## 【一般に、学級数が少ないことによる生じうる学校運営上の課題】

- ① クラス替えが全部又は一部の学年でできない
- ② クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
- ③ 加配なしには、習熟度別指導などクラスの枠を超えた多様な指導形態がとりにくい
- ④ クラブ活動や部活動の種類が限定される
- ⑤ 運動会・文化祭・遠足・修学旅行等の集団活動・行事の教育効果が下がる
- ⑥ 男女比の偏りが生じやすい
- ⑦ 上級生・下級生間のコミュニケーションが少なくなる、学習や進路選択の模範となる先輩の数が少なくなる
- ⑧ 体育科の球技や音楽科の合唱・合奏のような集団学習の実施に制約が生じる
- ⑨ 班活動やグループ分けに制約が生じる
- ⑩ 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じる
- ⑪ 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られがちとなる
- ⑫ 生徒指導上課題がある子供の問題行動にクラス全体が大きく影響を受ける
- ⑬ 児童生徒から多様な発言が引き出しにくく、授業展開に制約が生じる
- ⑭ 教員と児童生徒との心理的な距離が近くなりすぎる

# 都道府県が実施した理想的な高校規模に関するアンケート結果の例

## 高知県の例

平成23年9月に、県内の市町村（学校組合）立中学校生徒（3年生）とその保護者（抽出）、県内の県立高等学校生徒（2年生）とその保護者（抽出）を対象に調査。

問 あなたの行きたい高校が（あなたは、高校の規模として）、学年当たりどのくらいの学級数であればよいと思いますか（学年当たりの学級数はどのくらいが適切だと思いますか）。次の中から1つ選んでください。

<回答者別の各項目を選んだ割合>

項目 \ 回答者		中学生	高校生	中学校保護者	高等学校保護者
1	1学級	8.0%	19.3%	13.3%	18.3%
2	2～3学級	38.4%	31.3%	30.1%	32.3%
3	4～5学級	35.2%	33.1%	39.3%	37.6%
4	6～7学級	11.6%	13.0%	12.5%	9.2%
5	8学級以上	5.7%	3.1%	1.3%	0.6%

(出典)  
高知県教育委員会高等学校課  
「県立高等学校再編振興に係る  
アンケート調査報告書」(平成  
24年2月)

## 岡山県の例

平成30年5月に、市町村立中学校全151校の校長、市町村立中学校37校 第2学年のうち1クラスの生徒及び保護者、県立全日制高等学校25校 第1学年のうち1クラスの生徒及び保護者を対象に調査。

問 理想的な高校の規模は一学年当たり何学級ですか。（一つ記述）

回答	中学校長	中学校保護者	中学生	高校保護者	高校生
1学級	0.7%	0.5%	0.9%	0.6%	0.6%
2学級	0.7%	4.1%	4.6%	3.8%	3.1%
3学級	6.6%	16.7%	20.5%	8.8%	10.8%
4学級	20.5%	13.4%	20.8%	14.3%	18.4%
5学級	16.6%	26.9%	18.8%	26.0%	20.1%
6学級	29.1%	11.7%	12.4%	16.1%	14.5%
7学級	4.6%	4.3%	7.0%	7.1%	9.1%
8学級	9.9%	5.3%	6.0%	12.2%	11.9%
9学級	0.0%	1.5%	1.2%	1.7%	5.6%
10学級	1.3%	3.4%	2.3%	3.2%	3.7%
11学級以上	0.0%	1.2%	1.2%	0.5%	1.7%
(複数回答、無回答等)	9.9%	11.0%	4.2%	5.9%	0.4%

(出典)  
岡山県教育委員会「岡山県立高等学校教育体制整備実施計画」  
(平成31年2月)

## 少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方に関する論点（例）

---

- 今後、各都道府県において、高等学校の適正規模・適正配置に関する議論が一層加速することが考えられるが、全ての高等学校で維持されるべき機能はどのようなものか。
- 今後、少子化が加速する中で、高等学校の一層の小規模化が全国的に進む可能性があるが、小規模校におけるメリットを最大化し、課題を緩和するための方策として、どのような取組が必要と考えられるか。
- 例えば、小規模校においては、遠隔教育の活用や学校間連携の推進に取り組むことが考えられるが、各都道府県におけるこうした取組の推進のために、どのようなことが必要と考えられるか。
- その他、各都道府県での、少子化が加速する地域における高等学校教育の在り方に関する議論に資する取組として、どのようなことが必要と考えられるか。